



年 組 名前

道新 ワークシート

十勝地方の B に支障

A

管理悩む農家

【帯広】農業王国、十勝の農地を守ってきた防風林をどう管理するか、十勝管内の農家が悩んでいる。戦前から植林された防風林は近年、農作業の効率化や衛星電波によるスマート農業の支障になるとして伐採が進み、帯広市内では過去約30年間で半減した。ところが昨年12月、日高山脈から吹き下ろす「日高おろし」の暴風被害が発生。防風林の役割を見直す動きも始めている。

(泉本亮太)

「自動操縦のトラクター」。十勝管内大樹町の畑 8 個分に当たる45畝の農地が防風林の近くを通ると、作農家高松佑樹さん(31)は、で小豆やジャガイモなどを衛星利用測位システム(GPS)が狂い、進まなくな 高松さんは札幌ドーム約 栽培、2017年に無人の農業機械を導入した。しか



十勝管内の農地を強風から守る防風林

昨年12月24日、十勝管内芽室町、本社へりから(井上浩明撮影)

C で強風被害増 見直しも

し、70年ほど前に先代が植えた高さ20〜30mの防風林が衛星電波の位置情報を乱す。老木が多く、強風で倒れる恐れや、農地に落ちる枝が生育や収穫を邪魔する問題もあり、18年に伐採を始めた。

だが、その後、畑の風が強くなった。「日高おろし」と呼ばれる暴風が十勝を襲った昨年12月1日、高松さんのビニールハウスは無事だったが、近所の農家はハウスが破損。北海道新聞の調べでは、十勝での農業被害は840件を超えた。高松さんは防風林の重要性を再認識し、植樹も考えるようになったという。

格子状に並ぶ防風林は道東の農村景観の代名詞だ。このうち行政ではなく、農家が植える「耕地防風林」は1920年代に造りが始まった。近年は減少し、帯広市内で90年に417ヶ所あった総延長は2017年に220ヶ所と半減している。

十勝総合振興局が昨年行った農協青年部アンケートでは、防風林について約9割が「日陰ができて生産量が落ちる」と回答。「大型機械のGPS精度が落ちる」「邪魔」との回答も多かった。一方で約5割が「近年、強風被害が増えたと感じる」とも答えた。

防風林の減少が、土煙の増加につながっているとの見方もある。19年5月、畑の土煙による視界不良で車両12台が衝突する事故が十勝管内浦幌町で発生。道立総合研究機構林業試験場道東支場(同管内新得町)の岩崎健太研究主任は「この事故をきっかけに、ゼロだった防風林の植林相談が20年以降は数件あり、講演の依頼も増えた」。

十勝総合振興局は21年度、独自事業「十勝を守る防風林の維持促進の取り組み」を開始した。実態調査や普及活動を3年計画で実施し、23年度には植林の技術指導を行う計画だ。同振興局森林室の川西博史室長は「防風林の長所も見つめ直してほしい」と話す。



年 組 名前

道新のワークシート

- ①新聞の紙面構成について、点線で囲まれた部分は「リード文」というが、この部分は記事の中でどのような役割を果たしているか書きなさい。

--

- ②新聞記事の見出しにある空欄A・B・Cに当てはまる語句を、設問1の点線の中から選び、書き抜きなさい。

A	
B	
C	

- ③ (A)見出しに「悩む農家」とあるが、その悩みとはどのようなものか。具体的な事例を踏まえて、書きなさい。

--

- (B)あなた自身が当事者になったつもりで、この悩みと向き合ったときの考えを自由に書きなさい。
